

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18203030

研究課題名（和文） 家族研究のための大規模長期継続データの構築

研究課題名（英文） Construction of large size repeated cross sectional data for family studies in Japan

研究代表者

稲葉 昭英（INABA AKIHIDE）

首都大学東京・人文科学研究科・准教授

研究者番号：30213119

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：家族、公共利用データ、反復横断調査、全国家族調査、日本家族社会学会、NFRJ08

1. 研究計画の概要

日本家族社会学会が実施してきた全国家族調査（1999、2004年実施）の第3回調査を実施し、家族研究のための公共利用データとして研究者に公開する。

2. 研究の進捗状況

2006～2007年度は調査デザインと調査票の検討、2008年11月にサンプリング実施、2009年1月に実査を実施。9400人を対象に、約5000名の回答を得た。現在、データの整備・点検を行っている。間もなく本格的な分析に入る予定である。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

データの整備・点検を9月まで行い、9月以降、連携研究者と基礎集計をもとにした分析を開始、年度終了時には報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

- ① Jungnim Kim, et al., 2008 "Effect of Household Composition and Some Health Indices on Mortality Risk in Middle-aged Japanese from a Seven-Year Cohort Study", 日米高齢者保健福祉学会、3: 131-144 (査読有)

- ② 施 利平, 2008「戦後日本の親子・新族関係の持続と変化」『家族社会学研究』20(2): 20-33 (査読有)

〔学会発表〕（計 7 件）

- ① Nishimura, Junko, 2008a, "Women's socioeconomic status and distress: Comparative study between Japan and Korea," 103rd American Sociological Association Annual Meeting, Boston, August 1 to 4.
- ② Nishimura, Junko, 2008b, "Socioeconomic status and distress: Comparative analysis in Japan and Korea," International Sociological Association Research Committee 28 Meeting, Stanford University on August 6 to 9.

〔図書〕（計 26 件、編書論文を含む）

- ① 藤見純子・西野理子編, 『現代日本人の家族: NFRJ から見たその姿』, 有斐閣, 2009年.

〔産業財産権〕

- 出願状況（計 0 件）
○取得状況（計 0 件）

〔その他〕ホームページ:

<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/index.htm>